

JAL闘争を支える京都の会News No. 71

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

21春闘勝利！京都総決起集会で JAL争議団がアピール

3月27日、「21春闘勝利！京都総決起集会」が京都市内で開かれ、JAL争議団もアピールをおこないました。ユニオンネットワーク・京都が主催しました。

最初に「非正規労働者の均等待遇を実現しよう」と題して中島光孝弁護士が講演をおこないました。次に「JAL争議団」の神瀬麻里子さんがアピールをおこないました。

神瀬さんは「私たちの闘い、解雇されて今日で10年と86日になった。去年まる10年にあたっては絶対10年目は超したくない、11年目は迎えたくないということで、必死でがんばったつもりであるがまったくJALは動かなかった。本当に悔しい。今日は3点ポイントをしぶって話させていただきたい。

一つ目はまず争議団の今の動きをご案内したい。いつたい10年かかるって何で解決できないのだろう。JALは3年前に解決に向けて動き出すと言ったはずなのに、なぜそこを動かせていないのだろうということで、1月、2月、3月と原告団集会を開



いてその総括、そしてこれからどんな方針を持ったら良いのかを話し合って、前を向いてがんばろう、次の目標は6月株主総会で社長に解決を報告させようじゃないかということで今がんばっているところである。今、コロナで8万人を超える人が解雇されていると言われている。争議もたくさんおこなわれている。私たちの争議だけがひとり勝ちするわけは絶対ないので皆と手をつないでがんばっていこうということを確認している。この10年間、私も自分のできることをこ



つこつやってきたつもりであるが、本当に悔しい。絶対に解決させるつもりで不退転の覚悟である。この1月にまた、緊急事態宣言がだされた。関東の方では品川にある本社前で月曜日から金曜日、大きな取り組みがある日以外は毎日12時から13時まで本社前アピール行動をおこなっている。そちらも1月7日の205回目を最後に中断していたが、今月21日に宣言が終了したので、さっそく22日と24日は206回目、207回目の本社前宣伝をおこなった。今月からは火曜日は国会前で宣伝をしようということが決まり、23日火曜日は国会前で宣伝をしている。

(ウラ面に続く)

そして 25 日木曜日は JAL はオリンピック・パラリンピックの公式スポンサーなので、公式スポンサーがこんな差別的でひどい解雇をそのまま 10 年間放置しているとは何ごとか、ということでオリンピック・パラリンピックの組織委員会前での宣伝をしている。国民支援共闘という大きな組織があつて支援していただいているが、その 11 回目の総会が 2 月 17 日にリモートで開催された。そのニュースに JAL 闘争を支える京都の会の駒井さんの発言が載っている。そんな感じでがんがん攻めていくつもりである。出かけるところにはどこへでも出でていって JAL の悪さを広めていきたい。JAL がこの争議を解決せずにコロナを乗り切れるはずがないと思っている。私たちの解雇以降、内部留保も 1 兆円超えている。今こそ労働者のために内部留保を吐き出す時ではないかと訴えていきたい。

2 つ目のポイントとして去年に今頃はなかった動きとして国会での動きが高まっている。これがどこから始まつたかというと昨年 9 月 24 日に院内勉強会を開いた。そちらに議員と秘書の方、合計 39 名が参加していただいた。やっぱり、これはおかしいのではないかということが超党派の自民党から共産党までの議員の方の共通した意見であった。自分たちも何かしようではないかという



ことで、超党派の有志国会議員の方が厚労省を呼んでヒヤリングをしてくれたり、内閣に質問趣旨書を出していただいたりして、11 月 26 日には JAL を呼んだ。社長あてに来いという要請書を送ったにもかかわらず、やってきたのは事務方の二人だった。国会議員の方も怒っておられて、もう 1 回呼んでみましょうということで、4 月 26 日にもう 1 回出て来いということで、JAL の会長と社長あてに要請書を送っているが、未だにコロナで忙しいからちょっと待ってくれという情けない返事をしているそうである。いつまでも困っていないでもう解決する時ではないかと思う。なかなか出てこない JAL に業を煮やして国会議員からのメッセージというものを書いていただいてこれで会社にプレッシャーをかけているところである。このように国会での動きも進んでいる。最後にご報告したいのは春闘ということで JAL の労働組合もがんばっている。

私の所属するキャビンクルーユニオンは 2 月 15 日に大会を開いて要求を決定し、動けば必ず世の中は変えられるということを確認した組合大会であった。春闘の団体交渉は 5 回おこなわれたが、やはり会社もゼロ回答というわけにはいかなかったと思う。大きな



回答は出でていないが、職場の悩みに応える要求実現・回答がいくつかあった。やはり職場の中に闘う組合があるのはとても大切だと感じた。私たちの解雇以降、客室乗務員は 6000 名以上が採用されている。パイロットは 386 名である。その一方で 165 名は置き去りである。現役 CA の食べていけないという問題と私たちの争議は根っこは、働くものを大切にしない、そして労働組合つぶし、それは同じなので、この両輪でこれからもがんばっていきたい。これからもよろしくお願ひします。」と述べました。集会後、参加者は四条河原町下るまでデモ行進し、河原町通りでは神瀬さんがマイクを握って JAL 不当解雇の問題を市民に訴えました。